

避難等に関するヒアリング・ ワークショップの結果について

徳島県危機管理部

平成30年11月12日（月）

1 取組みの概要

■ 実施事項

【取組事項】

○検討委員会での議論を踏まえ、「避難等に関するヒアリング・ワークショップ」を実施

【実施一覧】

項目	開催場所等	実施概要、参加者等
住民アンケート	海陽町	【実施期間】 H30.5.23～H30.6.6 【配布】 海陽町住民2,000人に配付 【回収】 1,141票回収（回収率57.0%）
ワークショップ	海陽町	【開催日】 H30.5.25（金） 【参加者】 自主防災組織・地区の代表者等44名
同上	鳴門市	【開催日】 H30.6.22（金） 【参加者】 自主防災組織・地区の代表者等34名
要配慮者利用施設 ヒアリング	要配慮者利用施設 （4市町）	【実施時期】 H30.9.3～9.10 【対象施設】 要配慮者利用施設の5施設 （老人福祉施設：3施設、障がい者施設：2施設）
避難所生活 ヒアリング	海陽町	【実施時期】 H30.10.12～10.13 【対象者】 避難所生活に関する体験・ヒアリング対象者5名
ワークショップ	徳島文理大学	【開催日】 H30.10.20（土） 【参加者】 徳島文理大学の学生19名
避難所生活 ヒアリング	松茂町	【実施時期】 H30.10.27（土） 【対象者】 避難所生活に関する体験・ヒアリング対象者6名

※ は、前回の検討委員会以降の取組み

2-1 要配慮者利用施設へのヒアリングの実施

■実施状況

【目的】

- 普段からの地震津波対策の取組状況とあわせて、臨時情報の理解や発表時の対応の検討状況等を把握するため、ヒアリングを実施。

【実施概要】

- 対象施設：沿岸4市町の要配慮者利用施設 5施設
(老人福祉施設：3施設、障がい者施設：2施設)
- 実施時期：平成30年9月
- ヒアリング項目
 - 施設の概要（入所／通所者数、職員数（夜勤体制））
 - 南海トラフの対策の取組状況
 - ・備蓄状況、家具の固定、避難訓練、職員参集、情報収集、家族への情報伝達、地域等との連携
 - 臨時情報に対する取組状況
 - ・臨時情報の認知状況、対策

2-2 要配慮者利用施設へのヒアリングの結果

■ ヒアリング結果の概要

■ 普段からの防災・減災対策について

○ 備蓄の状況

- ・ いずれの施設も水・食料は3～5日分を備蓄。
- ・ 薬はローリングストックにて確保。

○ 家具等の固定

- ・ いずれの施設も備え付け・埋め込み式の家具の採用、プラスチック製品や高さの低い家具等へ変更するなどの対応を実施。

○ 避難訓練の実施状況

- ・ いずれの施設も年に1回は実施。月に1回実施している施設もあり。
- ・ 夜間を想定した避難訓練も実施している。

■ 臨時情報に関して

○ 臨時情報の認知状況

- ・ 臨時情報への認知は不足しており、ほとんどの施設で「知らない」、
「聞いたことはあるが、詳しくは分からない」との回答。

○ 臨時情報への対応

- ・ 現段階で、臨時情報に応じた対応を想定している施設はなし。
- ・ 臨時情報発表の際に、夜勤の増員、食料や薬の調達、連絡体制の確認等が必要だという認識はある。
- ・ 臨時情報の対応において、警戒レベルを上げる期間については、「事業者の判断が望ましい」との意見もあり。

- ⇒ 津波災害警戒区域（イエローゾーン）の設定に伴い、浸水想定区域内にある
要配慮者利用施設では、津波避難訓練が行われている
- ⇒ 突発的な地震の発生への備えの取組みが積極的に進められている

3 - 1 避難所生活に関するヒアリング（海陽町）

■ 実施状況

【目的】

○避難所生活を体験した住民から不安や必要となる物、不安解消に必要な取組みを聞き取り。

【実施概要】

- 対象者： 海陽町在住の住民8名(男性3名、女性2名、子ども3名)
- 実施時期：平成30年10月12日～10月13日
- 実施場所：海陽町まぜのおか



■ ヒアリング結果の概要

■ 避難所生活への不安に関して

- ・避難生活への不安や不便を感じているのは5人中2人。
- ・臨時情報発表による避難の場合、被災していないことが想定され、**自宅に避難所生活に必要な物を取り戻ることが可能**であるが、長期の避難生活や物資の不足等への懸念あり。

■ 事前避難の準備・支援に関して

- ・事前避難では、電源が確保できるといった状況であることから、行政が**事前避難用の持出しリスト等を作成**して住民への周知を図るべき。
- ・発生するかもしれないという不安が高まるため、**心理的負担を和らげる支援**が必要。

■ 事前避難を行う場合の持参品に関して

- ・枕や布団、非常食、ラジオ、薬、着替え、椅子、本等。

■ 避難所で快適に過ごすために必要なものに関して

- ・プライバシーの確保のための間仕切り等や冬の寒さ対策（ストーブ等）と夏の暑さ対策（扇風機等）。
- ・情報入手も兼ねたテレビ。

■ 学校や病院などに関して

- ・避難所で生活する場合は、**通学・通院のための送迎バス**等を準備する必要がある。

3-2 避難所生活に関するヒアリング（松茂町）

■ 実施状況

【目的】

- 避難所生活を体験した住民から不安や必要となる物、不安解消に必要な取組みを聞き取り。

【実施概要】

- 対象者： 松茂町在住の住民6名（男性3名、女性3名）
- 実施時期：平成30年10月27日
- 実施場所：松茂町総合体育館



■ ヒアリング結果の概要

■ 避難所生活への不安に関して

- ・ 6人中5人が避難生活への不安や不便を感じている。
- ・ 具体的な内容としては、**トイレや風呂、手洗い場などの衛生**関係、**食料や水**の確保。
- ・ 不眠やプライバシーの確保、集団生活へのストレス。

■ 事前避難の準備・支援に関して

- ・ 事前避難をするためには駐車場や物を置く場所、トイレや風呂、炊き出し等を準備しておくことが必要。
- ・ 高齢者等が早めに避難を行うためには、**行政からの避難情報の連絡**が必要。

■ 事前避難を行う場合の持参品に関して

- ・ 毛布やタオルケット、マットなどの寝具や、ラジオ、懐中電灯、食料・水、防寒用具や服、電源・電池、体を拭くシート、湯沸かし器、トイレトーパー、ウェットティッシュ、携帯電話、小銭、タオル。

■ 避難所で快適に過ごすために必要なものに関して

- ・ マットレスやシート、ダンボール、水などを**避難所に事前に準備しておく**必要があるとの意見が多い。
- ・ その他にもアルコールや殺虫剤・消毒剤、携帯電話や充電器・発電機、毛布、ダンボールベッド、食料・プロパンボンベ、簡易トイレ、室内用テントを準備しておくが良いとの意見もあり。
- ・ **各自が他人に迷惑かけないように心掛け**することが必要。

3-3 避難所生活に関するヒアリング結果まとめ

項目	主な意見
避難所生活への不安	<ul style="list-style-type: none">・ 避難所生活への不安や不便を感じている方が多い・ 不眠やプライバシーの確保、集団生活によるストレスへの懸念・ 長期化した場合の避難生活や物資の不足への懸念
事前避難の準備・支援	<ul style="list-style-type: none">・ 行政が事前避難用の持出しリスト等を作成し、住民へ周知を図るべき・ 高齢者等が早めの避難を行うには、行政から避難情報の連絡が必要・ 地震発生への不安に対し、心理的負担を和らげる支援が必要
事前避難を行う場合の持参品	<ul style="list-style-type: none">・ 寝具、着替え、ラジオ、懐中電灯、食料、水・ 体を拭くシート、トイレットペーパー、ウェットティッシュ等の衛生用品
避難所で快適に過ごすために必要なもの	<ul style="list-style-type: none">・ プライバシー確保のための間仕切り等・ 扇風機やストーブといった暑さ、寒さ対策・ 情報入手のためのテレビ・ 各自が他人に迷惑をかけないよう心がける

- ・ 避難所におけるプライバシーの確保や集団生活への不安を感じている
- ・ 高齢者等へ避難を促すには、行政からの避難に関する情報が必要
- ・ 避難生活の長期化への懸念が見られる


4-1 ワークショップの実施

■ 実施状況

【目的】

- 「臨時情報」が発表された場合の住民のみなさんの避難行動や考え方の把握。

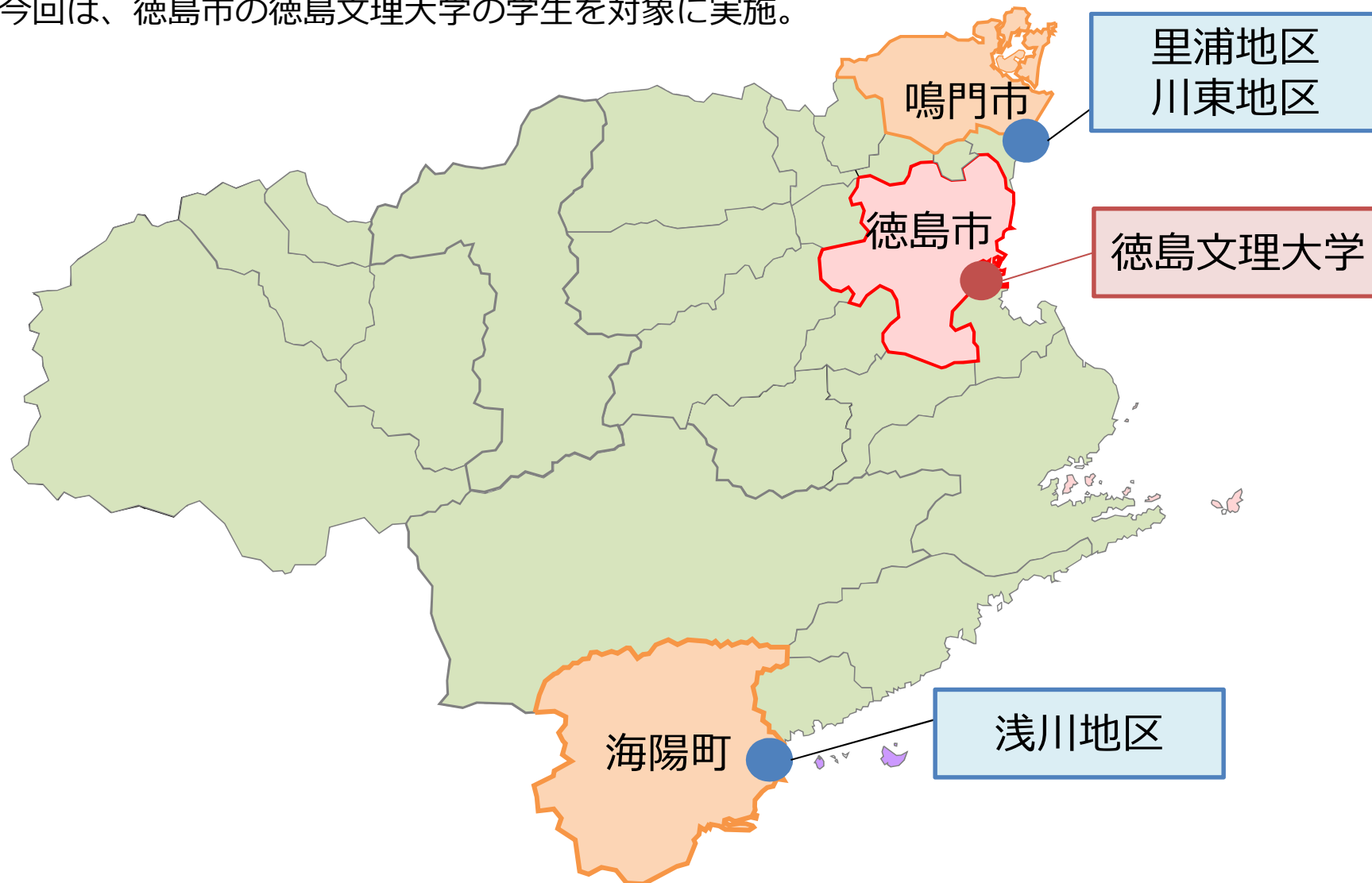
【概要】

	徳島市
開催日	H30.10.20 (土)
参加者	徳島文理大学の学生：19名 (1年生～3年生)
検討方法	「半割れ」と「一部割れ」の2つのシナリオについて、それぞれのグループをつくり、時間経過に応じた避難行動等を議論
災害発生の設定時刻	昼 (13時00分)
ワークショップの様子	

4-2 ワークショップの実施

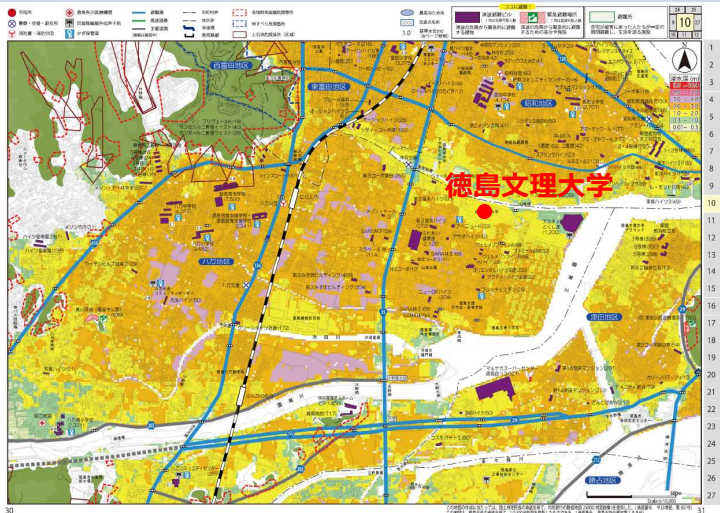
【実施箇所】

- 平成30年5月に海陽町浅川地区、平成30年6月に鳴門市里浦・川東地区にて実施済み。
- 今回は、徳島市の徳島文理大学の学生を対象に実施。



4-3 ワークショップの実施

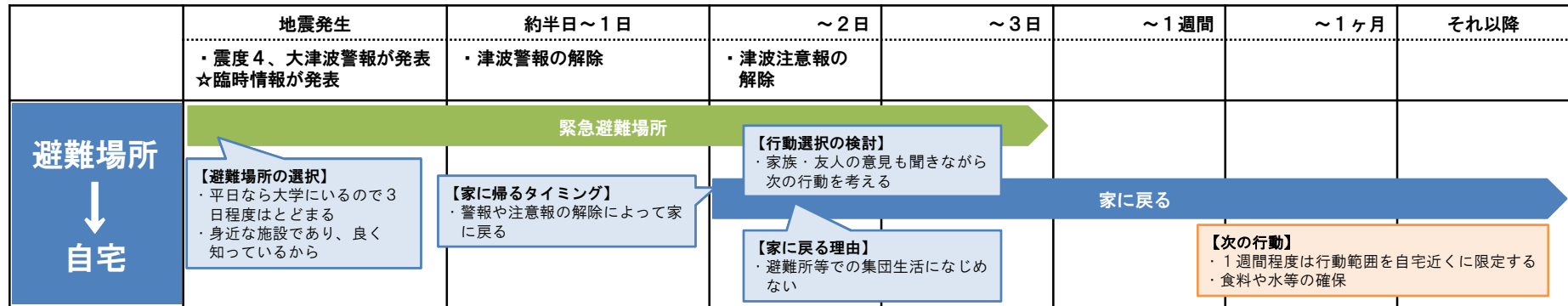
【地区の概要】

	徳島市（徳島文理大学）
人口（市）	254,515人
高齢化率（市）	27.7%
最大波の津波水位	5.0m（徳島市マリニピア東端）
最大波の到達時間	53分（徳島市マリニピア東端）
津波浸水区域面積（市）	57.5km ² /191.39km ²
津波到達予想時間（+20cm）	41分（徳島市マリニピア東端）
津波ハザードマップ	

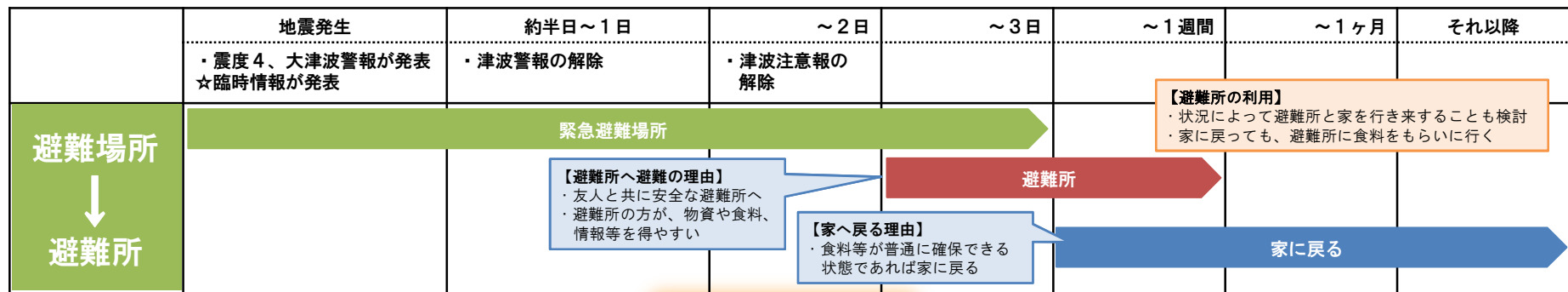
4-4 半割れ（大規模地震）の結果 【徳島文理大学】

■半割れ（大規模地震）の際の行動

【自宅等へ移動】全体の8割



【避難所へ移動】全体の2割



- ・ 避難場所から自宅等への移動が大半
- ・ 移動のタイミングは、大半が「津波警報・注意報」の解除による
- ・ 家族や友人の意見を聞いてから行動を選択することも想定している
- ・ 避難所へ移動した場合でも、「終日避難」は3日～1週間程度が限度
- ・ 「夜間のみ避難」を選択する意見もある

4-5 一部割れ（前震可能性地震）の結果【徳島文理大学】

■ 一部割れ（前震可能性地震）の際の行動

【自宅に滞在】 全体の8割

	地震発生 ・震度3、被害なし ☆臨時情報が発表	約半日～1日	～2日	～3日	～1週間	～1ヶ月	それ以降
家に滞在	家（避難しない）						
		【行動】 ・家族・友達と連絡・相談する ・学校に情報を聞く				【次の行動】 ・普段通りの行動 ・自宅に帰って避難用の道具を確認する	

【避難場所へ移動】 全体の2割

	地震発生 ・震度3、被害なし ☆臨時情報が発表	約半日～1日	～2日	～3日	～1週間	～1ヶ月	それ以降
避難場所 ↓ 家に戻る	緊急避難場所へ移動		家に戻る				
		学校に近い友達の家へ避難することも検討 【行動選択の理由】 ・友達と話し合っって行動を検討する		【理由】 ・大学が再開したら家に戻る		【次の行動】 ・寝る場所を安全な部屋にする	

- ・ 自宅で待機の意見の方が多い
- ・ 家族・友人等との情報交換を行うとの意見
- ・ 避難をしても何も起こらなければ2日程度で帰宅

4-6 要配慮者の行動

■ 要配慮者の行動

【半割れ(大規模地震)の際の行動】 全員が避難所

	地震発生	約半日～1日	～2日	～3日	～1週間	～1ヶ月	それ以降
	・震度4、大津波警報が発表 ☆臨時情報が発表	・津波警報の解除	・津波注意報の解除				
避難所	避難所					避難所生活を継続	
	【避難所へ移動する理由】 ・被害がなくても早めに避難 ・避難所に避難すれば助けてくれるひとがいる		【理由】 ・避難所等の生活が長引くようなら 家族等の家が良い			【理由】 ・全ての危険性が解消されるまで避難所等で生活すべき	
					家族等の家		

【一部割れ(前震可能性地震)の際の行動】 全員が避難所

	地震発生	約半日～1日	～2日	～3日	～1週間	～1ヶ月	それ以降
	・震度3、被害なし ☆臨時情報が発表	・津波警報の解除	・津波注意報の解除				
避難所 ↓ 自宅	避難所や津波が来ない場所等へ移動				自宅		
	【移動理由】 ・先手を打つ(被害を受けない場所、下敷きにならない場所等へ避難) ・安全確保が最優先		【理由】 ・避難生活の長期化は疲れるため				

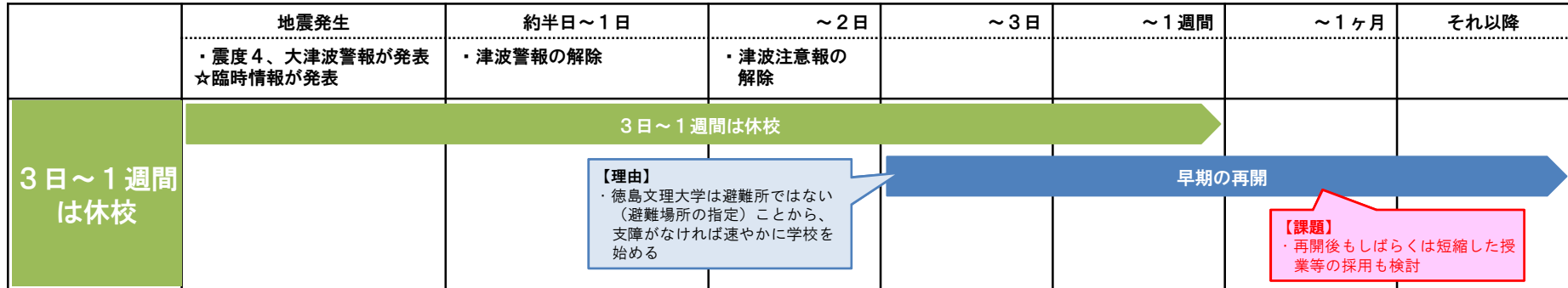
- ・ 半割れ・一部割れともに、安全確保等のために避難所へ移動するべきとの意見
- ・ 半割れの場合は、全ての危険性が解消されるまで避難生活を継続すべきだが、3日～1週間の避難生活で心身ともに疲弊する恐れがあるとの意見
- ・ 臨時情報の解除時期が分からない場合への対応の問題があげられている

4-7 学校や会社の行動

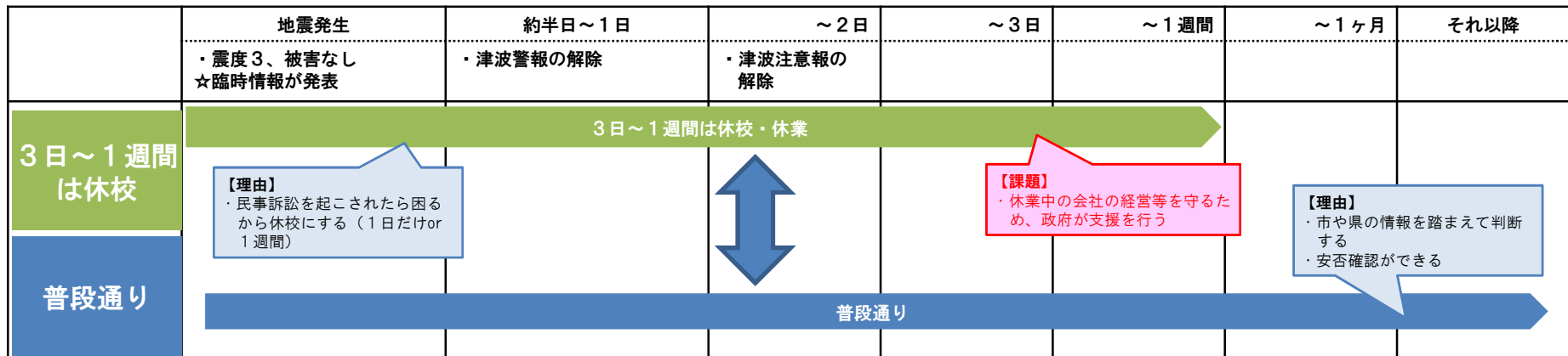
【徳島文理大学】

■ 学校や会社の行動

【半割れ(大規模地震)の際の行動】



【一部割れ(前震可能性地震)の際の行動】



- ・ 学校や会社は、3日～1週間程度は休校・休業すべきとの意見
- ・ ただし、休業中の支援が必要
- ・ 一部割れの場合は、普通通りが良いとの意見

4-8 WSの結果まとめ

項目	徳島文理大学学生	他地区との違い
避難行動 (半割れ)	<ul style="list-style-type: none"> 学校への一時的な避難を想定しており、その後は、自宅等への移動が大半 移動のタイミングは、大半が「津波警報・津波注意報」の解除 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな違いは見られない 避難所生活の経験がなく、避難所生活を想定している人が少ない 家族や友人の意見を参考にすると意見が多数
避難行動 (一部割れ)	<ul style="list-style-type: none"> 家に滞在するとの意見が多数 一時的に避難しても何も起こらなければ2日程度で帰宅 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな違いは見られない 避難所生活の経験がなく、避難所生活を想定している人が少ない 家族や友人の意見を参考にすると意見が多数
避難所生活	<ul style="list-style-type: none"> 3日から1週間程度が限度 プライバシーなどの理由が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 一般住民と同様の3日～1週間程度の避難所生活を想定していたが、比較的短期間の傾向が見られた
要配慮者	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保のために避難所等への移動を行うべきとの意見 避難所生活の長期化による心身の衰弱を懸念 	
学校や企業	<ul style="list-style-type: none"> 3日～1週間は、休校・休業すべきとの意見 ただし、企業の休業に対する政府からの支援が不可欠との意見 	

- ・ 自宅での生活を行いたいとの意見が多い
- ・ 津波警報・注意報のほか、家族や友人の意見が行動選択に影響を与えている
- ・ 避難所生活の期間は3日から1週間程度が限度
- ・ 要配慮者は、安全確保のために事前避難
- ・ 学校・企業は、休校・休業すべきとの意見だが、そのためには支援が必要

5-1 これまでの取組結果のまとめ

1) 臨時情報の認識等について

項目	住民アンケート	ワークショップ	その他
臨時情報の認識等	<ul style="list-style-type: none"> 「臨時情報」を知っているは3割 	<ul style="list-style-type: none"> 「臨時情報」を理解できていないため、どのような行動をとるべきかわからないとの意見もあり 若者は、親や友人と連絡・相談して行動を決めるとの意見もあり 	

2) 避難行動（半割れ／一部割れ）について

項目	住民アンケート	ワークショップ	その他
半割れ時の行動	<ul style="list-style-type: none"> 「津波警報」や「津波注意報」の解除を踏まえて自宅に戻る意見が大半 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅への移動のタイミングは、大半が「津波警報・津波注意報」の解除 3日～1週間程度の避難所生活後は、家に戻り地震発生に向けた準備等を行うとの意見が多数 	
一部割れ時の行動	<ul style="list-style-type: none"> 「臨時情報」を受けて事前避難するとの回答は2割にとどまる 避難勧告や避難指示(緊急)による判断が7割 	<ul style="list-style-type: none"> 津波到達が早い地域では、一時的に避難するとの意見が多い 即時避難可能な場合等では、避難を行わないとの意見が多いが、余震や行政からの情報によっては避難するとの意見もあり 家で待機した場合は、地震への備え(持出品の準備等)に取り組む意見が多数 	

5-2 これまでの取組結果のまとめ

3) 避難生活について

項目	住民アンケート	ワークショップ	その他
避難の期間	<ul style="list-style-type: none"> 半割れの際は、3日以内が4割、1週間以内が7割 一部割れの際は、3日以内が8割 	<ul style="list-style-type: none"> 避難生活については、3日～1週間が限界との意見が多数 一般住民では3日～1週間程度の避難生活を想定 若者の方が期間は短い傾向 プライバシーの問題等の理由が大きい 	
避難生活	<ul style="list-style-type: none"> 半割れ時は、終日避難が8割、夜間のみ避難が1割5分 一部割れ時は、終日避難が7割、夜間のみ避難が2割 避難所生活の負担・不安から避難生活を避けたい意向あり 	<ul style="list-style-type: none"> 余震の状況等をみながら、自宅に食料・物資等を取りに帰るといった対応を想定 	
避難所生活への懸念	<ul style="list-style-type: none"> 避難所生活の負担・不安をあげる回答者は、半割れで6割、一部割れで7割 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所生活への懸念として、プライバシーの確保等をあげる意見が多数 避難することによる治安の悪化に対する懸念をあげる意見もあり 	<p>【避難所生活ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所生活への懸念として、衛生面やプライバシー、食料・水の確保等があげられている
避難生活への備え		<ul style="list-style-type: none"> 避難していても、必要な物を日中に、家に取りに行くといった意見もあり 	<p>【避難所生活ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所に事前に備蓄・備品等を準備してはとの意見あり

5-3 これまでの取組結果のまとめ

4) 要配慮者の行動について

項目	住民アンケート	ワークショップ	その他
要配慮者の 事前避難	<ul style="list-style-type: none"> 「要配慮者」は事前避難しておくべきとの意見が8割 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守るためにも発表の終了まで避難生活を続けるべきとの意見が多数 ただし、避難生活の長期化による心身の影響を懸念する意見もあり 	<p>【施設ヒア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 突発的な地震に対する備えは進めているものの、臨時情報への対応は未着手の状況 臨時情報に対する警戒レベルを上げる期間は、事業者の判断が望ましいとの意見 <p>【避難所生活ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者等の早目の避難のためには、行政からの連絡が必要との意見あり

5) 学校・企業等の対応について

項目	住民アンケート	ワークショップ	その他
学校・企業等の 対応		<ul style="list-style-type: none"> 若年層からは、半割れ時に、3日～1週間程度休校・休業すべきだが、休業に対する補償などの問題があり、支援が必要との意見 一部割れ時は、普段通りで良いとの意見 	<p>【避難所生活ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難生活が長期化した際には、通学・通院のための送迎バス等の準備が必要との意見あり